

ちば里山新聞

（第78号）
編集発行 NPO 法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
☎ 0438-62-8895
題 字 倉島 貴浩
（ワークホーム里山の仲間たち）

2026年を迎えて！！

新年明けましておめでとうございます。

いつも里山に対する情熱をもって活動していることに感謝いたします。今年度はこれからの里山活動をどの様に展開していくかが重要になると思います。どんな森の姿を目指すのか、団体としてどうなりたいか目標を決めていることとは思いますが、具体策が見つからないとか、うまくいかない等感じている団体もあります。

2年前よりちば里山イノベーションハブが立ち上がり、森に関係する団体で連携できないかと打ち合わせを重ねて来ました。しかし、他団体の活動がよく分からず、一歩が踏み出せずにいました。そこで、会議室から飛び出してフィールドでどんなことをしているのか確認することにしました。

この試みで、各団体の繋がりが強くなることを期待します。

それからもう一つ、南北格差の解消に向けて意見を集めたいと思います。千葉県北部、特に東葛地域では、活動に参加する方は増えているのに、活動場所が少なかったり狭かったりで十分な活動が出来ないことがある一方で、他の地域では活動に参加する人数が限られ、作業が滞ることも確認されています。今後、各団体の課題等を把握する為にアンケートを実施して、交流を図っていきたいと考えています。

里山を取り巻く環境も変化しており、対応が求められている中で、いろいろな団体と協力して県民にも参加しやすい里山活動になるよう協力していきましょう。

ちば里山センター理事長 佐藤 孝之



『一生続けられる理由』 ちば森づくりの会 山野 佳秀

コロナ禍が終息した2023年6月。何か新しい事を始めたく、何となくWEBで「NPO さとやま」と検索していると、『ちば森づくりの会』という“とんでもない会”がすぐ近所にある事を発見。参加してみて「ボランティアをなめていた、ガチの林業だ…」これが私の第一印象です。想像以上に本格的。期待をはるかに超える娯楽がそこにありました。



前置きはさておき、この場では私の思う「この会の魅力」をお伝えしたいと思います。それは、「健康、金、そして人」です。人間の幸福度を測る大きな要素ばかりです。まず「健康」ですが、この会は本格的と前述しましたが、言い換えると実はかなり過酷。冬でも汗をかき、時には筋トレ並みの作業もあります。入会してからの健康診断の数値は毎年良い状態をキープ。健康維持にはもってこいの趣味です。

つぎに「金」ですが、もちろんこれは金もうけできるという意味ではありません。年会費 1,000 円で楽しめる、とってお得な娯楽という意味です。NPO の大きな魅力の一つかも知れません。機械、道具類はすべて会にそろっていますので、体一つで林業ができます。「お金がかからない=ずっと続けられる」というのは大きな魅力です。

さいごに「人」ですが、実はこれが一番の魅力。唐突ですが、会の集合写真を見て頂けますか？一見、よくあるオジサンボランティア集団に見えます。しかし、実はみんなスゴイ先輩達なのです。林業・造園を本職としている方はもちろん、植物・生物に詳しい方、機械、IT、法律、税金、政治、海外、、、あらゆるジャンルのプロフェッショナル集団です。この会は、いわば私にとっての図書館でもあり、何か知りたい事があったらココに来れば大抵のことはわかります。仕事の世界にはない多様性の魅力がココにはあります。

以上が私の思うこの会の魅力です。もはや「一生続けられる趣味」を私はこの会に見つける事ができました。会の皆様に感謝です。



私と野生動物 大町教育の森の会 大町タケ子

動物に関するドキュメンタリー番組や動画を、よく見ます。レンズ越しに魅せてくれる姿に、驚いたり癒されたり。子供の頃は、金魚や小鳥や犬を飼っていました。大人になってからは、野鳥観察で声や姿を楽しんだり、住宅街で見かけるタヌキに驚いたりします。そして夏山で雷鳥やカモシカと偶然出会ったことは、山登りの嬉しい出来事のひとつです。

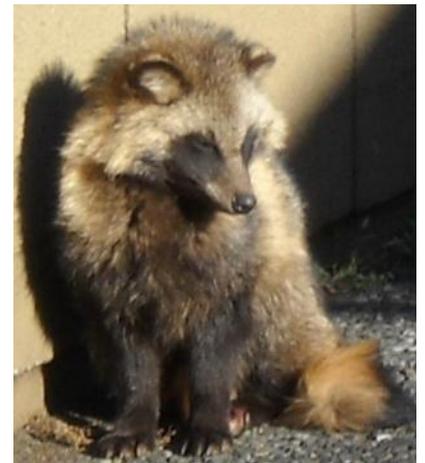
人間との生活に適応した動物でも、知られていない一面があり興味が尽きませんが、なかなか姿を現さない野生動物にも興味があります。どんな行動をするのか、学説通りの生態なのか、自分で確認してみたいと思っていました。

ボランティア活動の拠点は市川市北部にあり、名産の美味しい梨の農園に囲まれた都市近郊樹林地（私有地）で、見回してみると動物の痕跡があちこちに点在しています。興味を持って観察しないと気付くことができませんが、藪の中から聞こえる微かな音、掘り返された小さな穴、落ちている羽根など。

運よくトレイルカメラを入手できたので、番組や動画を参考に撮影することにしました。樹林内には、おそらくタヌキによる貯め糞場があり、昨年八月、そこにカメラを設置してみましたが、撮影できませんでした。貯め糞場が消失したのです。原因はわかりませんが、カメラを警戒し排泄しなくなったのかもしれませんが。

場所などを変更し、あらためて挑戦したところ九月に無事撮影できました。そこには予想されたホンドタヌキだけでなく、ハクビシン、ノネコ、ニホンノウサギが行き交う、夜の世界が広がっていました。特にニホンノウサギは、市川市北部での目撃例が減少した為、画像で生息が確認できたことは、私だけでなく、ボランティアの皆さんにとっても驚きだったようです。

そんな撮影を始めたばかりですが大変残念なことに、この樹林地は北千葉道路によって近い将来無くなります。こういう野生動物が生息していた、という記憶をせめて残しておきたい。そんな思いも含めて撮影しています。



泉の里山活動

泉里山保全会 小川 善一

2014年、勤めを卒業し稲作農業へ。即、水利組合の役員となり地区の農道・用排水路の維持管理のため、地区の農業施設の現状を確認してまいりました。農業施設は老朽化が進み維持管理に苦勞していることを肌身で感じました。

そんな時、改良区で「多面的機能維持支払い交付金事業」の説明があり、農業関係者だけでも申請できると聞き、翌2015年から「泉環境保全会」活動をスタート。

一方、地区内山林の多くは侵入竹が入り込み、枝打ち・間伐の手も入っておらず荒廃している状況でした。そこで山林に関する事業がないか市に相談、「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」を知り、2017年から「泉里山保全会」活動をスタート。

チェーンソー扱える人、山林を所有している人、こうした活動に意欲的な人に声を掛け、16名でスタートし、今年9年目、関係者のご協力、ご指導のもと当初計画の達成ができる見込みとりました。この活動を「無事故」で終わることが出来、御協力下さった方々感謝致します。

以下に活動の成果を紹介します。

1. 部落間を繋ぐ林道を復活 簡易舗装を実施、車で通り抜け可能



2. 神社の山林 侵入竹の皆伐、針葉樹は間伐



3. 幹線道路沿いの山林 竹・針葉樹・広葉樹林で鬱蒼としていたので整備



里山じまん ㊤

竹もりの里

長生郡長南町は全域が里山そのもの、チーバ君のへそのあたりに位置します。町の中心地にある竹の駅ちょうなんはぐると山に囲まれ、廃園となった空き幼稚園を町から借りて、竹の活用を考えているのがNPO 法人竹もりの里です。雑木林



の中には竹林もあり、引っ越した当初は人を寄せ付けない程荒れた里山でした。長い間、人の手が入らなかった裏山は倒木と枯れ竹が散乱し、里山で活動される皆さんには想像できると思います。竹もりのメンバー・企業・大学生・子ども達がボランティア参加で整備してくれました。5年を経過した今では木製の階段が設置され、自由に散策できるようになり、春には竹の子掘りもできるようになりました。竹の駅の園庭では竹を活用したイベント・バンブーピクニックを開催、竹とんぼ、竹弓、竹楽器、竹馬、竹灯り、竹笛などなど竹遊びは盛り上がり、多くの家族連れで賑わい楽しみました。



バンブーピクニックの開催

竹の駅ちょうなんでは近隣の竹林所有者から伐採した孟宗竹の買取りを毎月2回実施しています。買い取った竹はパウダー状に加工してバイオプラスチック原料、農業用土壌改良材、里山再生の竹炭として活用しています。綺麗な里山はそこにある資源を循環させ、蘇らせることで保全できると考えています。

NPO 法人竹もりの里理事長 鹿嶋 與一



竹バイオトイレ

里山の風にゆられて ㊤



コウバイ<紅梅>バラ科サクラ属

紅梅は早春に、白梅より少し遅れて咲く赤い梅の花を指し、その色合いは「あでやかさ」の花言葉を持ち、庭木や盆栽で、親しまれています。特に緋梅系(ひばいけい)の梅は花も枝も赤く、一重咲きのものが「真の紅梅」とされることもあります。

源氏物語にては「紅梅大納言」という人物が登場し、作品の重要な要素ともなっています。

写真・文 赤松義雄 R8.1.16 ちば里山センター

ちば里山センターでは、里山整備を通じて環境問題や、地域の課題、子どもの教育に取り組んでいる団体を支援しながらSDGsで県民に親しまれる豊かな森づくりに取り組んでいます。



ちばSDGs

つれづれごと

令和8年を迎えて、新しき事を始めるには良い時期かと思えます◆ナラ枯れでぽっかり空いた空間を埋めるには、荒れた竹林を整備するにはと今年新しい知恵を絞り◆皆さまの里山活動に期待したいものです。

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>